



令和 7 年 3 月 1 日 現在
 総世帯数 8,360 世帯
 総人口 17,229 人
 男 8,674 人
 女 8,555 人

**芳川地区
 地域づくりセンター**
 ☎58-2034
芳川出張所
 ☎58-2034
芳川公民館
 ☎58-2034
芳川福祉ひろば
 ☎57-0168
※芳川地区地域づくりセンター、
 芳川出張所、芳川公民館への
 連絡は同じ番号となります。
芳川みなみ福祉ひろば
 ☎86-1055



**『芳川の水ものがたり』
 四ヶ堰くいまの暮らし
 プロジェクト
 紙芝居完成報告**



奈良井川と田川の氾濫堆積からなる芳川地区は、水利に恵まれない土地でもあり、常に水を求めて戦ってきた歴史があります。明治5年、百瀬三七らの四ヶ堰完成をもって水不足が解決され、いまの豊かな土壌と暮らしが育まれてきています。

ここで、先人たちの熱い思いや取組みを紙芝居として、またその偉業の上にある現在、地域で活き活きと展開される実践や人々の思いを記録（撮影）としてまとめ、地域に暮らすあらゆる人たちが次世代につながる語り継いでいく『芳川水ものがたり』四ヶ堰くいまの暮らしプロジェクトを展開するものです。



▲芳川歴史研究会 村田正幸さん

堰現地学習



水路の現地学習にも積極的に参加し、芳川歴史研究会の村田さんの堰の歴史に耳を傾けていました。限られた人だけが知る歴史ではなく、昔の人たちの想いを伝え、今を生きる私たちが地域に息づく魅力を、次の世代へとつないでいきたいと思います。

松本国際高校にて

このプロジェクトは、そんな「芳川水ものがたり」を、紙芝居と映像で記録し、未来へ手渡す取組みです。今回の紙芝居づくりにあたり、地元松本国際高等学校総合進学コース「マンガイラスト専攻」の3年生が、地域の歴史を未来へ残そうと、取り組んでくれました。

制作を前に、紙芝居を依頼した松本国際高校にて懇談会を開き、生徒の皆さんにプロジェクトの趣旨、四ヶ堰の歴史等をお話しました。



紙芝居『芳川“水ものがたり”』発表会

紙芝居の完成発表会が、2月27日(金)に芳川小学校体育館にて行われました。

発表会には、芳川小4、6年の児童をはじめ、制作した松本国際高等学校の生徒、またナレーションを担当した同校声優部の生徒等が参加。

完成した紙芝居の上映では、ステージのスクリーンに映し出された、(登場人物)小学校5年生の「えいた君」と「まいちゃん」。明治7年の芳川地区にタイムスリップした水巡りの旅の絵を食い入るように見つめていました。



▲原画の彩色も松本国際高等学校：マンガ・イラスト専攻の皆さんが担当



▲最近では製作過程・色塗りもPC上で

短い時間でしたが、素晴らしい発表会となりました。

《原画作者の声》

高橋和奏(わかな)さん

(松本国際高校3年/令和元年度芳川小学校卒業生)

紙芝居に携わるまで詳しい歴史を知らなかった。これを機に多くの人が関心をもってくれるとうれしい。



▲四ヶ堰の完成に力を注いだ百瀬三七翁



▲松本国際高等学校 マンガ・イラスト専攻と声優部の皆さん

《芳川小学校児童の声》

水にもたくさんさんの歴史があつておもしろかったです。昔の人のおかげで水が使えることに感謝したいと思います。(6年)



▲声優部の流石の語りにびっくり

《声優部の声》

林 真央(まお)さん

(松本国際高校2年/声優部部长)

地域の人たちと関わらせてもらい、紙芝居の経験もできて勉強になった。はじめは緊張していたけど、本当に楽しかった。

《芳川小学校児童の声》

芳川の水には、たくさんの方が関わっていたことを知りました。その人たちの思いを忘れなないように大切に使用して、守っていかなければならないと思いました。教えてくださりありがとうございました。(5年)

《芳川小学校児童の声》

芳川“水ものがたり”を見て、この地区にも昔の人ががんばってくれたから、今は困っていないことが分かりました。百瀬三七さんの話は社会で勉強していたので知っていましたが、今回の水ものがたりを見て芳川地区の歴史をもっと知りたいと思うきっかけになりました。(4年)



▲四ヶ堰に尽力した百瀬三七翁のひ孫さん二人



△観覧中の児童たち

たちばなし

今年のビッグイベントの1つ、ミラノ・コルティナ五輪が終わりました▼メダルを期待された選手、今回で最後とした選手が注目されました。特にフィ

ギニアは団体からエキシビションまで魅了されました

▼スノーボードハーフパイプでは、皆が高いレベルで、平野流佳選手は4位で号泣していたし、スノーボードアル

ペン7回連続出場場の竹内智香選手の最後の滑りも、スピードスケート高木美帆選手の1500mへの想いにも感動しました▼他にももつとあります

が、感動と同時に、何となくしつくりこないような感じもありました▼報道が人気競技やメダルに偏っていたからです。僅差で4位でも15位でも、自己ベストだったかもしれないのです。特に違和感があったのは、メダリスト会見での質問がフィギュアの選手に集中したこと。モーグルやスピードスケートの選手はほぼ映りませんでした▼国民の多くが求めているであろう質問以外にも取材した記事や番組も必要だと思いませんか。順位や記録に現れない部分も報じてほしいですね。